

参加2年目の初優勝

10年おきに大仕事

通算1オーバー 145

田中 雅之（若木、65歳）



10年ぶりに訪れたチャンスを確実にものにした。2000年に入ってから田中は03年に初の日本アマ出場。

「ゴルフ人生の自信になった」と振り返るほどのターニングポイントとなった。そして10年後の13年には九州シニア（知覧CC）のタイトルを獲得。そして今回の優勝。10年おきに大仕事をやってのけた。「九州シニアも九州ミッドシニアもいずれも参加2年目に勝った。武田幸一さん（かほ）から『2年目はチャンス』と言われていた」と大先輩の言葉を体現したのである。

初日は73のスコアで5人が並んでのトップタイスタート。首位から3打差に21人がひしめく大混戦の中、田中に勢いをもたらしたのが1番ミドルでのパーパットだった。第2打をグリ

ーンオーバーし、アプローチは2・5mショート。下りの難しいフックラインが残った。同じ組の2人は楽にパーを取っていた。丁寧に何度もラインを読んだ田中は得意とするパットでパー

を拾った。「あのパーで乗っていった。その後、楽に振れるようになった」と2バーディー、2ボギーと安定したゴルフを展開した。1番とボギーにした2ホール以外はカラーも含めて15ホールで“パーオン”。「とにかくセンター中心に」スコアを落とさないゴルフに徹した。それには苦い教訓が生きている。昨年の九州シニア（北山CC）の最終日、田中はアウトで33の好スコアを出して2位に4打のリードを奪うが、「ピンを狙っていた」ゴルフで後半は44と大失速。榎隆則（大分中央）に逆転負けを喫する。「榎さんは『センター中心で行く』と言っていた」。同じ轍（てつ）は踏まなかった。

ゴルフを始める前、田中はウインドサーフィン、水上スキー、スピードスケート、スキーなどのスポーツに熱を上げた。台風が来ると、高い波を求めて海に繰り出し、毎年6回も北海道のゲレンデで滑っていたほどである。30歳の時に父・金次さんから「危ないから」とこれらのスポーツの代わりにゴルフを勧められる。田中は明治22年創業、鮮魚の出荷仲買専門の「田源商店」（長崎県松浦市）の5代目。今は家業を息子の雅宏さんに譲っている。

クラブを持ち始めて1年半でシングルの仲間入り。「シングルになったら、ゴルフはやめようと思っていたけど、仲間が多くて。それから35年。あつと言う間だ」。今では所属コースの若木GCの研修会会長を務め、クラチャンは29勝1敗という圧倒的な成績を誇る。

「来年、佐賀で国体があり、ホームコースの若木ではゴルフ競技が行われる。最後の花道として何としても選ばれるように頑張りたい」。1998年から毎日60回の腹筋を1日も欠かしたことの無い田中には強い信念がある。



《伊都ゴルフ倶楽部》

